

教育・研究・医療の中核拠点をめざして 学校法人大阪医科薬科大学は飛躍します

歴史と伝統に支えられ 人間性豊かな医療人を育成



学校法人 大阪医科薬科大学
理事長 植木 實

学校法人大阪医科薬科大学は大阪と京都の中間にある自然環境豊かな高槻市に大阪医科大学、大阪薬科大学、高槻中学校・高等学校の3教育機関と、大阪医科大学附属病院などの医療施設をもつ医療系総合大学・学園として、地域社会に深く根づき信頼関係を築いてきました。

世界的視野をもつ人間性豊かな良質の医療人と、次世代を担うリーダーの育成を使命としています。

また「地(知)の中核拠点(Center of Community)」として医学、薬学、看護学が融和する先進的医療体制の構築と提供をめざし、特色ある学際教育・研究とチーム医療教育にとりわけ力を注いでいます。

本法人の三つの教育機関はいずれも長い歴史と伝統を誇る名門校として社会に広く認められ、これまでに合わせて4万人を超える有為な人材を世に送り出してきました。

本年は大阪医科大学が1927年に創立して90周年となります。この節目に際し、「至誠仁術」という大阪医科大学の学是にこめられた建学の精神を振り返ることで、わたしたちは次の1世紀に向けた新たな飛躍に邁進してまいります。



since 1927
90th
Anniversary

大阪医科大学は 創立90周年を 迎えました

▲大阪医科大学



▲大阪医科大学附属病院



▲高槻中学校・高槻高等学校

▲大阪薬科大学

五つの改革を進め、実績に実績を上げる

大阪医科大学 学長 大槻 勝紀



学長として五つの教育改革方針を公表し、改革を進めています。

1. 国際化(Internationalization) 2016年に建学の精神と学是を継承し、同年に日本医学教育学会大卒生17年に新カリキュラム実施。18年4月に向けて医学教育分野別評議(国際認定)の受審準備や高大接続に伴う入試改革など。

医・薬・看護連携、医療現場から学ぶ

大阪薬科大学 学長 政田 幹夫



1-3年の歴史の中で、2万人以上の卒業生を送り出し、様々な分野の第一線で活躍中です。

「E-learning」を必須としました。医療現場から学ぶ「人の命にかかわる医薬品を扱うための高い生命倫理観の修得」、医療チームの一員である薬学臨床としての薬剤師や「命の尊厳」を理解し、崇高な臨床マインドを持つ薬学・生命科学研究者を育てることを目的とした教育を行っています。

探究・創造、志を育む空間が進化中

高槻中学校・高等学校 校長 岩井 一

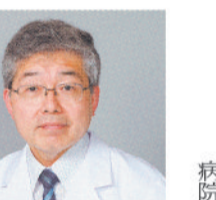


本校は1940年の創立以来、男子進学校として教育に取り組んでまいりました。

クルールの指定を受けています。生徒が自ら「探究」することに主眼を置き、科学的探究心や創造性を高めるために、大学や研究機関と連携しています。

最新設備で質の高い医療を提供

大阪医科大学附属病院 病院長 内山 和久



中央診療部門を1879人の医療スタッフで支えています。

附属病院は現在、地域医療の要を担う882床の病院として、29の診療科と14のICU、4階に胸部外科病棟、5階には消化器外科病棟が配置されています。

学校法人 大阪医科薬科大学

Voice 声 100年

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 監修: 朝日新聞大阪本社声編集

広告特集

医学知識増やす クイズ大会開催

大阪医科大学 医学部 4年 井上 鐘智

ともある。どうしたら多くの医学知識を身につけられるかを考え、昨年初開催された生理学クイズ大会の第2回を企画した。緊張した状況で開催された生理学クイズ大会のプレッシャーの下で、大会のレクリエーションの下で取り組む難解な生理学の問題は、医学部生たちの脳裏に深く刻まれ、ひいては将来の患者さんを救うことにつながる。我々が作製した難問の数々に、参加者は楽しみながらの能力を、自分自身のために活用し、医療の道を進むために日々考えながら、医師になるための勉学を続けていきたいと思う。

祖父の死を通して命の重みを知る

大阪薬科大学 薬学部 5年 小山 佑輔

私の家族は、持病のため毎日薬を服用しています。幼い頃は服薬の負担を減らしてあげたいと思っており、医療従事者への道を志すことになりました。薬学部では命の大切さを説く授業もあり、「生」と「死」、両方の観点から命を見つめ直す機会が与えられます。ですが、専門知識を身につけても、自分が医療従事者になるには何か足りない、という思いが私には常にありました。そんな時、祖父が亡くなったのを覚えています。

患者さんに寄り添う医師になる

高槻中学校 1年 矢野 七海

私は小学4年の時、医師になろうと思いましたが、親戚の女性が医師で、かっこいいなと思ったからです。小学5年の時、母の妊婦健診について行く中、エコー検査でおなかの赤ちゃんが動くのが見えました。不思議な気持ちと楽しみな気持ちでいっぱいになりました。同時に、病院では多くの人が動き、医療を支えているのだと感じました。母は大きなおなかで塾を送り迎えや弁当作りをしてくれました。無事に産まれてきた時、私はその小ささを「命」をテーマに「声」を募集します

生まれてくる奇跡 忘れられない

大阪医科大学 看護学部 4年 神吉 風花

私は助産師を目指しています。助産師実習では、指導を受けながら実際の産婦人科の介助を経験し、お産に一人ひとりが、皆違うのだと感じました。お産を終えた女性に「支えてくれたありがとう。助産師になりました。助産師になることができた。助産師は命の誕生の瞬間に立ち会うことができる職業ですが、全ての新生児が健康に生まれるとは限らないと思います。

貧困解消へ行動したい

高槻高等学校 1年 湯山 黄介

私は今、学校の講義でグローバル化した世界が抱える問題や学んでいる。その中でも私が日々興味をもち、持っているのは、貧困問題である。途上国では、不十分な食料や劣悪な衛生環境により健康が脅かされる現状がある。さらに、子どもたちの教育の機会が奪われがちで、その結果、感染症などから身を守る術を学べず、命を落とすことにもなる。貧困が命を脅かしているのだ。先進国の人々に、途上国の貧困の実態をより正確に知ってもらい、小さなことからでも行動をおこすべきだと私は考える。例えば、個人レベルの寄付など、それらはとても小さな行動に見えるかもしれない。だが、「涸渇寒がされれば終に江河となる」との言葉のように、いつか貧しい人々に入らぬ生活をもたらす流れになるのではないかと。私は、命というものはおのれと与えられただけのものであると考え、私は高校での取り組みで、そのような考えをさらに強めた。今後、学習を通して、グローバルイシュー(地球規模の課題)を深めたい。

救急・災害現場で命と向き合う

大阪医科大学附属病院 救急看護認定看護師 濱田 美穂

現在私は、救急外来で業務主任看護師として勤務しています。新人の頃、目の前で患者さんの容体が急変しました。もったいなくて、被災された方々に「命」の尊厳を身に染みて感じました。これからは日々の看護活動を通して、真摯に「命」と向き合い、患者さんやご家族から教えていただきながら、成長し続けていきたいと思っています。

あなたの「声」をお寄せください

「命」をテーマに「声」を募集します
「命」の意味はさまざまです。生命のこと、大切にしていること……。
「命」にまつわる思い出やエピソードをお寄せください。
投稿先 〒533-0863 大阪北郵便局私書箱10号 朝日新聞「声」
FAX 06-6969-0100 メール dai.koe@asahi.com
▼住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号(携帯可)
テーマ「命」と明記してください